

6月のモロッコの政治情勢等を、当地報道を中心に以下のとおりまとめました。要人往来については末尾の一覧表をご覧ください。

なお、当政治月報は当月中にメディアで多く取り上げられた話題をその都度記録したもので、これらニュースについての当館及び日本政府の立場を何ら反映するものではありません。

【主な出来事】

- ◎ （7日）ラマダンの開始
- ◎ （10日）2015年参議院選挙における15名の議員の当選無効
- ◎ （28日）公務員退職・年金改革法案の参議院における採択

<内政・政局・治安>

1 内政

（1）公務員退職・年金改革法案の審議開始と参議院における採択

（ア）13日、参議院財政・計画・経済開発委員会は初めて公務員退職・年金改革法案を審議した。同法案は主要労働組合の反対にあり、審議の開始が遅れていた。13日の参議院財政委員会での審議においても、UMT（モロッコ労働組合連合）とCDT（民主労働連合）は、参議院での審議の前に社会対話の枠組みで議論する必要があるとして、審議を欠席した。これに対し、UGTM（モロッコ労働者総連合）は審議に参加した。現在の政府提案は、2019年までに公務員の退職年齢を段階的に63歳に引き上げることを目的としている。参議院規則によれば参院での審議は6月25日までに了する必要がある。

（イ）28日、参議院本会議は公務員退職・年金改革法案を採択した（賛成27票、反対21票、棄権4票）。参議院で採択された同法案は審議の結果、当初案と異なり、2017年から2022年までの6年間で公務員の退職年齢を段階的に63歳まで引き上げることとなっている。参議院での採択により、7月から同法案は衆議院での審議に付される予定。

（2）衆参両院による憲法裁判所裁判官指名

（ア）14日、衆参両院はそれぞれ3名を憲法裁判所裁判官として指名した。衆議院からは、モハメッド・アブデサダック議員（PJD）（任期9年）、ムーレイ・アブデラジズ・ハフィディ・アラウイ議員（RNI）（任期6年）、モハメッド・ムリニ議員（USFP）（任期3年）が指名され、参議院からは、モハメッド・アンサリ議員（PI）（任

期9年), ナディール・エルムンニ議員 (PAM) (任期6年), モハメッド・ジュアハリ議員 (MP) (任期3年) が指名された。このうち5名が弁護士資格を有しているが, 憲法裁判所裁判官としての任期中は弁護士活動を停止しなければならない。

(イ) なお, 憲法裁判所設置に関する規定 (憲法第130条) によれば, 憲法裁判所は12名の裁判官で構成され, 任期は9年, 再任は不可。6名の裁判官は国王が指名するが, うち1名はウレマ上級評議会 (イスラム教学識者を集めた当国公式機関) 事務局長により推薦される。また, 残る6名は衆参両院から各々3名ずつ選出される。

(3) 2015年参議院選挙における15名の議員の当選無効

(ア) 10日, 憲法評議会は, 昨年10月2日に行われた参議院選挙における32件の申立て (27名の参議院議員に関連) を精査した結果, 15名の参議院議員の当選無効を発表した。当選が無効となった15名の参議院議員のうち, 1名が地域圏議会, 10名が市町村議会・府県議会, 2名が職能組合代表, 1名が給与取得者組合, 1名が雇用者組合代表から選出されていた。当選無効の理由として, 合法的な盗聴により, これらのうち12名が当選のために非合法な手段を用いたことが明らかになったためとしているほか, 残る3名については, 被選挙資格の無効, 違法な所属労組の変更, 選挙リストにおける差別的な暗示を含むスローガンの使用を当選無効の理由としている。

(イ) この結果, 当初24議席を有し, 当初参議院における最大派閥であったPI (イスティクル党) の保有議席数は17議席となったほか, PAM (真正と現代党) は当初の23議席から21議席に, PJD (公正と発展党) は12議席から10議席に, MP (人民運動党) は10議席から9議席に, RNI (独立国民連合) は8議席から7議席に, モロッコ経団連は8議席から7議席に, SND (民主国民労働組合) は1議席から0議席に, それぞれ保有議席数を落とした。これにより, PAMがPIに代わり同院における最大派閥となった。なお, 憲法第92条に従い, 当選無効となった15議席分の補欠選挙が実施される必要がある。

(4) 2015年市町村選挙・地域圏議会選挙の結果詳細の発表

15日, 内務省は, 昨年9月4日に行われた市町村選挙・地域圏議会選挙の詳細な結果を発表した。主な結果は以下のとおり。

市町村選挙獲得議席数

政党	獲得議席数	シェア
PAM	6,655	21.12%
PI	5,106	16.22%
PJD	5,021	15.94%
RNI	4,408	13.99%
MP	3,007	9.54%
USFP	2,656	8.43%
PPS	1,766	5.61%

総獲得票数

政党	市町村選挙	地域圏議会選挙
PJD	1,559,814	1,672,178
PAM	1,333,546	1,318,700
PI	1,070,095	1,057,658
RNI	886,433	883,421
MP	646,415	631,877
USFP	563,134	546,472
UC	401,900	493,277

UC	1,489	4.73%	PPS	422,759	413,238
----	-------	-------	-----	---------	---------

(5) ムーレイ・アフメド王子の誕生

23日、国王実弟ムーレイ・ラシッド王子に男子が誕生し、モハメッド6世国王はムーレイ・アフメド (Moulay Ahmed) 王子と名付けた。

(6) 国王主宰閣議の開催

(ア) 23日、モハメッド6世国王はカサブランカにおいて国王主宰閣議を開催し、法律の非合憲性訴求のための組織法案を始めとする4本の組織法案、パリ協定を含む13本の国際協定及び10本の二国間条約を採択すると共に、10月7日の衆議院選挙を見据えて、衆議院組織法と政党組織法の改正を採択した。

(イ) 衆議院組織法の改正案は、選挙における政党同盟の承認、選挙キャンペーンの態様、男性若年層に割り当てられた30議席における女性若年層の立候補承認、最低得票率の現行6%から3%への引き下げ等を目的としている。また、政党組織法の改正案は、選挙における政党同盟結成の手續、政党助成金の改正及び改正後の手續変更等を目的としている。

(ウ) また、同国王は、マラケシュ＝サフィ地域圏知事や外務次官を含む高級官僚を任命した。

2 治安

(1) 6名のISIL支持者の逮捕

2日、中央司法捜査局 (BCIJ) は、テトゥアン、マルティル及びカサブランカで活動していた6名のISILの支持者を逮捕した。逮捕者は、シリア・イラク領内で活動するISILのモロッコ国内における拡大戦略と密接な関係を有し、一部のメンバーをISILの訓練キャンプに送り込み、必要な訓練を施した後モロッコに帰還させテロ行為の実施を企てていた。

(2) メクネスにおけるISIL支持者1名の逮捕

4日、BCIJは、メクネスにおいてISIL支持者1名を逮捕した。逮捕者は、捜査によってISILの戦略の遂行に深く関わっていたのみならず、爆発物の製造に携わってきた長い経験と、実際に山間部での訓練等を行っていたことが明らかとなっている。逮捕者は、モロッコ国内あるいは欧州諸国でテロ行為の実施を企てていた。

(3) ウジュダにおけるベルギー在住イタリア人ISIL支持者の逮捕

8日、ウジュダ・アンガッド空港治安当局は、国土監視総局 (DGST) との協力の下、モロッコ国内で当該男性が重要施設へのテロ攻撃を企てているとして、同空港において在ベルギー・イタリア男性を逮捕した。同者は2014年、シリア・イラク国境のISILのキャンプに参加しようとしたものの、これを断念し、一旦ベルギーに戻ったが、その後ISIL幹部からの指示により2015年6月からモロッコに入国し、カサ

ブランカ市内の攻撃目標に対する監視・観察等を数度に亘り行っていた。

(4) テトゥアンにおける過激なパンフレットの配布者逮捕

20日、テトゥアン警察は国土監視総局（DGST）と連携しつつ、過激思想のパンフレットを近隣住民に配布した疑いで男性1名を逮捕した。逮捕者宅の捜索によってISILの過激思想及び爆発物製造等に関わる文書やISILをたたえる歌詞を押収した。

(5) 10名のテロ容疑者の逮捕

23日、BCIJは、ウジュダ及びテンドレラにおいてISILの思想に傾倒した10名からなるテロ細胞を解体した。大半の逮捕者は犯歴を有しており、うち1名はモロッコに不法滞在するアルジェリア人であった。容疑者はウジュダ市内のショッピングモールを下見し、覆面、刃物、通信機器を用いて強盗を企て、テロ行為の資金調達を図っていた。

<外交・国際関係>

3 アフリカ諸国との関係

(1) アフリカ・ウレマのためのモハメッド6世財団上級評議会の設置

(ア) 14日、モハメッド6世国王はフェズにてアフリカ・ウレマ（イスラム教学識者）のためのモハメッド6世財団上級評議会を開設した。この上級評議会は既に昨年発足していたアフリカ・ウレマのためのモハメッド6世財団の意思決定機関となる。同国王は開設の演説の中で、この上級評議会がアフリカのウレマの間での協力・経験共有・調整の枠組みとなることを望む旨述べつつ、ウレマがそもそも寛大な宗教であるイスラムの真のイメージを広め、アフリカの安全・安定と発展のために節度・寛大・共存の意思といったイスラムの価値観を促進することを望む旨述べた。

(イ) なお、この上級評議会には、エチオピア、中央アフリカ、チャド、セネガル、スーダン、ソマリア、トーゴ、ガボン、カメルーン、コートジボワール、ニジェール、アンゴラ、ベナン、ブルキナファソ、コモロ、南ア、ジブチ、サントメプリンシペ、シエラレオネ、ガンビア、ガーナ、ギニアビサウ、ギニア、ケニア、リベリア、マリ、モーリタニア、ナイジェリア、タンザニア、コンゴ（民）のイスラム教の賢人（Alem 乃至 Alima）が評議員として参加するほか、モロッコからはモロッコ・ウレマ上級評議会事務局長、モハメッド6世イスラム指導者養成学院学院長、各ウレマ地方評議会評議員が参加する。

(2) モーリタニアによるモロッコ人労働者の労働許可証の撤回

16日、モーリタニア政府はモロッコ・モーリタニア合弁通信会社モーリテル社のモロッコ人労働者の労働許可証を撤回することを決定した。この決定は、モハメッド6世国王が、イジードビヒ・モーリタニア外務・協力大臣からの表敬を拒否した2日後に行われた。同国王の表敬拒否はアブデラジズ・ポリサリオ戦線書記長の葬儀にモーリタニアが公式弔問団を送ったことに起因していると言われている。他方、16日、ハルフィ情報・コミュニケーション大臣兼報道官は（モロッコとモーリタニアの間に）危機が存在するとは考えていない旨述べた。

(3) カガメ・ルワンダ大統領のカサブランカ訪問

20日から21日までカサブランカを訪問したカガメ・ルワンダ大統領はモハメッド6世国王と会談した。また、20日、モハメッド6世国王はカガメ大統領のために、ムーレイ・エル・ハッサン皇太子、ムーレイ・ラシッド王子、ペンキラン首相、衆参両院議長、閣僚等とともにイフタール（ラマダン中の日没後の夕食）を催した。なお、カガメ大統領は昨年11月にも当地アマデウス研究所（タイエブ・ファシ＝フィフリ外交担当国王顧問（元外相）の長男が主宰）の招待にてタンジェを訪れ、地中海関連会合に出席した。

4 その他

(1) メズアール外務・協力大臣の中東和平イニチアチブ閣僚級会議出席

3日、メズアール外務・協力大臣はパリで開催された仏主催中東和平イニチアチブ閣僚級会議に出席した。同会議において、メズアール大臣は、モロッコがエルサレムを首都としたパレスチナ国家の独立にかかるすべての誠実なイニシアティブを支持すると表明した。この観点から、同大臣は、交渉の再開がないことから生じる地域における過激化の重大なリスクに対応しつつ、国際社会においてパレスチナ問題を優先的に議論する必要性を強調した。同大臣はまた、パレスチナ住民に希望を再度与えることの重要性を述べつつ、交渉再開の必要性を語った。

(2) ソウザ・ポルトガル大統領のカサブランカ訪問

27日、ソウザ・ポルトガル大統領がモハメッド6世国王の招きに応じてカサブランカを訪問した。ソウザ大統領はカサブランカ到着時にベンキラン首相に出迎えられたほか、モハメッド6世国王と会談した。また、王立海軍基地を視察し、カサブランカ＝セタット地方圏知事による表敬等を受けた。

<モロッコ要人の外国訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
6月1日	寿府	セッディキ雇用・社会問題大臣	ILO会合参加
6月2日	仏	メズアール外務・協力大臣	中東和平イニチアチブ閣僚級会議出席, ケリー米国国務長官との会談
6月2日	仏	ブーハドゥード産業・貿易・投資・デジタル経済大臣付小企業・インフォーマルセクター統合担当特命大臣	OECD開発センターハイレベル会合出席
6月2日	スーダン	タルビ・アラミ衆議院議長	アフリカ国会議員連盟第68回会合出席
6月6日	イタリア	エル・ヒティ・エネルギー・鉱山・水利・環境大臣付環境担当特命大臣	イタリア環境省創設30周年記念式典出席

<外国要人のモロッコ訪問>

日付	国・機関	名・肩書き等	目的
5月30日-6月2日	インド	アンサリ副大統領	ベンキラン首相との会談, タルビ・アラミ衆議院議長との会談, 駐ラバト・インド・モロッコ商工会議所開設式典出席
6月1日	ブルンジ	ンディクリヨ上院議長	ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣との会談
6月15日	イタリア	アメンドラ外務次官補	ベンキラン首相との会談, ブーアイダ外務・協力大臣付特命大臣との会談
6月20-21日	ルワンダ	カガメ大統領	モハメッド6世国王との会談
6月21日	ハンガリー	ブシュ外務貿易省次官補 (南方開放政策担当)	ブリタ外務・協力大臣付特命大臣との会談
6月23-24日	仏	ロワイヤル環境・エネルギー・海洋大臣	第1回同盟及び連合に関するグローバル・フォーラム出席
6月24日	モーリタニア	イジードビヒ外務・協力大臣	メズアール外務・協力大臣との会談 (アブデル・アジズ大統領発モハメッド6世国王宛親書の転達)
6月27日	ポルトガル	ドゥアルテ・レベロ・デ・ソウザ大統領	公式訪問 (モハメッド6世国王との会談他)
6月28-29日	米国	ミッシェル・オバマ大統領夫人	女子教育促進関連プロジェクト会合出席他

(了)